

## 新発見資料「細川忠興書状」の特別展示

### 【概要】

長浜市北村大輔氏（元長浜城歴史博物館学芸員）が所蔵する細川忠興の書状を中津市歴史博物館常設展内にて展示します。

この古文書は北村氏によって発見され、これまで未確認の史料であったことがわかりました。細川忠興が中津城主時代の史料であったことから、今回なかはくにて展示するものです。\*令和3年1月9日まで、常設展の細川氏のコーナーで展示をします。

### 【史料の内容】

寛永8年（1631年）8月13日に出された書状で、明人の医師、少峰という人物に宛てられたものです。同年8月、前将軍徳川秀忠が病に伏せたと聞いた忠興は、いともたつてもいられず、江戸へ向けて中津の湊から出航しました。しかし、嵐により国東の竹田津にて停泊を余儀なくされました。この書状は船中にて書かれたもので、当時長崎に寄留していた少峰に最高級の伽羅（香木）などの買い付けを求めています。他の船が波で叩き割られたり流されたりする大嵐の中、買い物を頼む忠興。忠興が中津城主時代のエピソードとして大変面白い史料です。

### 人物紹介

#### 細川忠興（三斎 1563～1646）

慶長5年より中津城主。小倉城に移るも元和6年に家督を忠利に譲り隠居、寛永9年に肥後に移るまで中津城に住んだ。明智光秀の娘ガラシャは正室。茶人としても有名で、千利休の七哲の一人に数えられる。また、筆まめとしても知られ、自筆書状が多く伝存する。



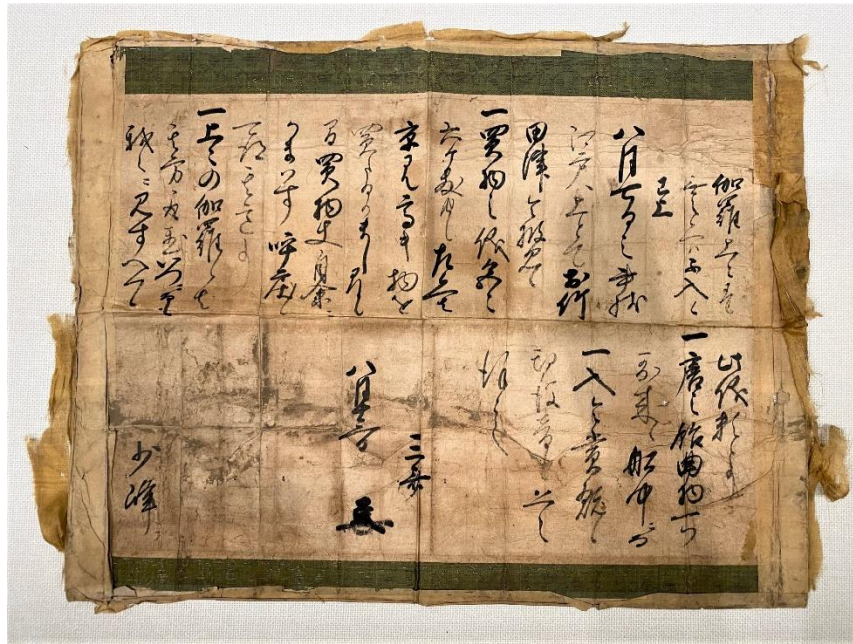
#### 少峰

明人の医師。忠興が息子の忠利に家督を譲り、自身が中津に隠居する際に、少峰には小倉の家を中津に移すか、同様の屋敷を与えるからと中津に呼び寄せたくらい信頼を置いていた人物。



#### 船中からの書状

8月8日に出船した忠興の船は、9日に今津、10日に竹田津に着岸し、風がやむのを待っていました。船中から息子の忠利に宛てた手紙がいくつか残っており、「船頭川村弥右衛門と申者のせ候船も、浪にてたたきわり候。よその荷船一艘、いかりを吹切いつくとも不知流ちり候。竹中采女など船もかかり居候つる、浪を打ちこまれ散々の仕合に候つる。」と、家臣の乗った船などが散々な目にあっている様子も伝えています。



伽羅上々にて  
無之候へハ不入候、  
已上、

八月七日之書状  
江戸へ上とて於竹  
田津令披見候、  
一買物之儀色々  
六ヶ敷由候、左候へ者  
京見高キ物を  
買たるかまし尋候  
間、買物丈自余二  
かまハす呼戻候、  
可得其意事、  
一上々の伽羅候者、  
其方取置いつ二而も  
我々ニ見すへて  
此儀頼候事、  
一唐之飴曲物一つ  
到来候、船中二而  
一入令賞翫候、  
期後音候、恐々  
謹言、

三齋  
八月十三日（花押）

少峰

【現代語訳】

上物の伽羅でなければ入手無用です。

八月七日のあなたからの書状は江戸へ上る途中の竹田津で読んだのでその返事です。

一、買物についてはいろいろと難しそうですね。それでしたら、京都では高く売ってそんなものを買ってきてください。そのほかに構わず買物だけ済んだら呼び戻しますから、そのつもりでいてください。

一、上々の伽羅があれば、あなたがとり置いて、いつでも我々にみせてください。このこと頼みますよ。  
一、唐の飴曲物が一つ到来しました。船中でひとときわ賞翫しています。返信まで。

三齋  
八月十三日（花押）

少峰

伽羅…東南アジア原産の最高級の香木、沈香。  
賞翫…良いものを珍重してもてはやすこと。

【問合せ先】

中津市教育委員会 歴史博物館

TEL:0979-23-8615